

パブリックコメント「私が描く“未来のとくしま”」の募集結果について

新しい総合計画の策定にあたり、「私が描く“未来のとくしま”」に関する意見募集を行った結果、65名の方から84件のご意見をいただきました。頂いたご意見は、新しい計画策定の参考とさせていただきます。
貴重なご意見を頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

募集期間：令和4年5月11日から6月30日まで

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
1	私が描く“未来のとくしま”		<p>○四国新幹線が開業して JR四国とJR西日本の共同運行による四国新幹線「しおじ号」がJR新大阪駅まで営業運行している。⇒JR新大阪駅で東海道新幹線並びに北陸新幹線との乗り継ぎの向上ができる。</p> <p>○紀淡海峡連絡自動車道が開通して、阪和自動車道の和歌山JCTで阪和自動車道で大阪・関西国際空港方面、京奈和自動車道で奈良・京都方面へ行けるようになる。</p>	<p>○四国広域連合が発足して、徳島県が関西広域連合と四国広域連合との橋渡し役・パイプ役の役割を果たしている。</p> <p>○徳島県に四国経済産業局並びに中小企業基盤整備機構四国本部、四国総合通信局のICTサテライト・オフィス徳島事務所が開設している。</p> <p>○徳島県に消費者庁並びに国民生活センターの全面移転が完了している。</p>	
2	徳島の商店街をどうするか	<p>昨今報道にもあるように徳島市の新町商店街が急激に衰退している。人の購買手段や移動の仕方が変わったことが大きい。せめて最低限、玄関口である意味を考え、他所から来た人を歓迎するのにふさわしい街として、人の賑わいやシャッター街化した街の修正が必要だと感じる。</p>	<p>周りはお年寄りだらけ、街ですれ違う若者は稀、県の人口は激減、税収減、徳島は地方の衰退県の先頭を行く。悲観の中でも国を代表する事業を起業する県出身の若者がチラホラ。将来、県の公務員の年齢制限は撤廃。海外や都心部で感性を磨いた若者が30代後半で子連れで帰ってきて、公務員職も選択肢として選べるように。自分が住みたい街を自分でデザインできる公務員職が人気を博す。公的な力で街予算確保、変化に強い街を作る。</p>	<p>議会の誰かが公務員試験の受験年齢制限の撤廃を提案。興味のある人が街づくりに積極的に参加できるように検討。街の復興などに実績のある企業に県として依頼、コラボし、街づくりを長期目線で考え始める。まだ街は人が減ること以外は変わっていない。そこう跡地が再稼働、成果が見える頃。良くなっていれば駅前人が増えているはず。</p>	<p>コロナ禍が収まるまでに東新町の天井の雨漏りの修理。夏の踊り子の通り道、公的予算を費やしても修繕すべき。シャッター店は市が買い上げ又は住居としている人には街づくりのため交渉。低価格で貸出しテナントを得る。駐車場は無料か500円程度均一まで。ショッピングモールを商店街で作るイメージ。カートで自由に商店街内を歩ける。病院、スーパー、娯楽施設等を配備。新町に行けば初めて徳島に来た人も不便しない街作りをする</p>

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
3	子育て支援について	仕事をしながら子育てするのが大変である。特に子どもが中学に入るくらいまで。	育児休暇取得率が上がる。病児保育の充実。仕事の際に子どもを預けられる施設（小学校卒業まで）の充実。	男性の育児休暇取得が進む。病児保育施設が都市部だけでなく利用できるようになっていく。	育児休暇取得率が高い企業への支援。病児保育を行う施設への支援。子どもを預けられる施設への支援。子育てを母親だけに負担させない社会への啓発。
4	環境問題について	環境問題について自分のこととしてとらえることができている人が少ないように思います。	再生可能エネルギーの安定的な供給が進む。資源の再利用が進む。	再生可能エネルギーの施設を増やす。資源の再利用が可能な商品が増える	県の取り組み、企業の取り組み、県民の意識、全てが変わっていく事が必要かと思えます。
5	人口減少への適応戦略	徳島県は少子高齢化による人口減少に直面しており、これからの地域を誰がどう支えて行くのかが大きな課題です。そのためには移住など外から人を呼んでくる施策も重要だとは思いますが、人口減少はある程度避けられないことですので、それに抗うよりも、それを受け入れ、どうすれば徳島で生まれ育った人が幸せに生涯を終えることができるかという視点でのいわば適応戦略のような施策展開も必要。	人口減少・超高齢社会となっているが、イノベーションにより、生活や地域を支える新たな技術が普及・一般化し、県民それぞれがそれらを駆使することで、不便を感じることなく、充実した生活を営んでいる。そうした徳島の姿が全国に伝わることで、徳島で暮らしたいという人が自然と集まり、活気が生まれ、さらに人が集まるという好循環が生まれている。	そう大きくは変わらないが、イノベーションに対する投資を呼び込む実証フィールドになっている。	イノベーション人材の育成とイノベーションを産むスタートアップ企業の呼び込み。また、そうした企業を呼び込む県としての環境整備（企業が投資しやすい環境をつくる）
6	徳島県が特色ある県として残れるか	県都の徳島市が喘いでいる。打つ手がないほどに行き詰っている、将棋で言えば詰んでいるのだ。県の中心は完全に吉野川の北・主に藍住や北島町に移っている。住みよい町は、この2町に石井である。辛うじて列車やバスの路線が徳島駅を中心として成り立ち、それを食い止める	このままではジリ貧であり、徳島県らしさもなく、昨今見かける過疎地のように荒れるだけである。大阪に近いのでしっかりと農業エリアを確保する。藍住・石井を中心とした農協を中心にした法人化された農業が期待される。鳴門・小松島から海部までの漁労エリアは、養殖と漁労の場の整理、漁業組合の統合。海岸線の観光、漁労エリア（漁労体験型・サーフィン型）、重点地域や漁協の設定。祖谷や剣山のような観光型と木頭のように林業	まず、農業・漁業・林業のしっかりした後継者の育成である。農業大学校のようなところで訓練・育成。まず、その職業で生活できる人を増やすことだ。	構想会議を設置。農業振興懇談会、漁業振興懇談会、林業振興懇談会、観光や体験型観光懇談会を作り、そこでまとめる。その後全体としてどうしていくかを検討する。

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
7	デジタルについて	新しいコンピュータの技術が進み、それについていけない者がいる。自分のような高齢者がそうであると思う。コロナが流行り出してから、必要な事だと思いつけようとするが、難しい。	色々な立場の人がより分かりやすく安全にコンピュータに触れ合える、扱えることができる。手続きも全てコンピュータでできるようになる。	田舎でもコンピュータに接続できるように整備されて、何でもわからないことを聞ける窓口が作られる。	
8	重点投資	人口減少が進む中、若者の働く場の確保が重要だと思います。働く場の確保はイコール雇用の場というわけではない。若者の働く場の捉え方は変わってきている。従来通りの企業に就職することも働き方だが、起業の場の確保ということも働く場の確保という意味では重要性が高まっているのではないと思う。	スタートアップ企業が大きく成長して、日本や世界経済を支える一翼をになっている。多くの若者がそれらの企業を目指して徳島に集い、さらなるビジネスが生まれ、スタートアップ企業が次々と誕生している。利便性と自然環境とが調和したまちづくりがなされ、従来の大都市とは異なる活気が溢れたまちになっている。	スタートアップ企業が創業しやすい環境が整備され、起業するなら徳島だというイメージが全国に広がりつつある。	中途半端な施策展開や投資をやめて、将来を見据えた重点的な投資を行う必要がある。例えば企業支援なら、スタートアップの支援を全国どこよりも優れたものとするなど、特化していくべきだと思います。DX、GXが盛んに言われる中、ゲームチェンジを行う千載一遇のチャンスと思う。地域金融機関も巻き込み他の追随を許さないような思い切った有利な融資制度や補助制度を設けてはどうか。
9	テーマパークをつくる	徳島県には大きなテーマパークがない。また、公園なども老朽化で使えなくなっているところが多く、特に私の住む県西部には遊べる場所が少ないため、県外に遊びに行くことが多いので、近くに遊ぶところがあればいいと思う。	大きなテーマパークができて県内外から観光客が訪れている。	公園など地域の施設も更新され身近に遊ぶ場所がある。	公園施設を新しくする。テーマパークを作る。
10	人口減少・少子高齢化社会への対応	人口の減少と都市への集中により地域の働き手が不足している。	未来技術を活用し、あらゆる仕事が効率化され人口減少時代においても経済成長が実現している。	未来技術を活用できる基盤が県内全域で整備されている。	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
11	人口減少・少子高齢化社会への対応	過疎地や山間部などへの行政インフラの維持・更新に多大なコストが発生している。	コンパクトシティをつくり、税金を効率的に使っている。	未来技術を活用できる基盤が県内全域で整備されている。	
12	人口減少・少子高齢化社会への対応	介護への不安・負担が大きい。	すべての希望者を受け入れることができる介護施設ができています。	未来技術を活用できる基盤が県内全域で整備されている。	
13			自動運転により、交通事故が無くなるとともに、現在では運転免許を持っていない若者や高齢者など自動車を所有していても不自由のない生活ができています。	自動運転が実装され、交通事故が減少している。	法整備、道路整備
14		地元にとどまりたいと思っている若者も就職の場がないため都市へ出ていき過疎が進んでいる。また若者がいなくなることで地域の活気が減り、後継者がおらず仕事が続けられないという負のスパイラルがある。	テレワークが発展し、職種によっては職場という概念がなくなり、地元に残り続ける若者が増え地域が活気づいている。	大企業が徳島に本社機能を移転し、徳島において雇用が創出されている。	税制優遇による支援
15			自然豊かなままの徳島	若者が働ける場所が欲しい。若者が増えて欲しい。	
16			関西の台所として農産物の生産力拡大	関西からの外国人観光客や移住者の受け入れ先進地域	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
17	芸術による地域活性化	美術や音楽など、芸術に触れる機会が少ない	街中に芸術が溢れており、県民みんなが芸術を身近に感じている	<ul style="list-style-type: none"> ・アートを切り口に観光振興を行い、観光客が増えている ・徳島で芸術活動ができる環境が整っており、移住者が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から豊かな感受性を育むため、学校の授業において芸術に触れられる機会を増やす（教育機関） ・芸術家の徳島への移住を促し、補助を行う（行政） ・空き家や余った土地を活用し、芸術祭などのイベントを企画する（行政、企業）
18			最低所得保障により全ての県民が貧困から開放されている	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	
19			環境負荷の少ない食料生産が進むとともに、地産地消により食料自給率が高い水準で維持されている	昆虫食、代替肉、完全栄養食などの、生産、製造を行う先進的な企業の誘致や連携により、食料・栄養課題解決先進県として取り組みを進めている	
20			全ての県民が時間や場所に縛られることなく医療を受けることができる	山間部、過疎地域などでも遠隔診断や遠隔処方を受けれる環境が整備されている。	
21			全ての世代、生活形態にあった学びの場が提供され、生涯学習が展開されている。	ICTの活用により、徳島にしながら全国・世界の先進的な知見を学ぶことができる。	
22			男女共同参画が達成され、働き方や生き方を自由に選べるようになる	ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	
23			生産・製造に至るまで機械化・自動化が達成されている。	受付や事務処理などの単純作業は機械化・自動化が達成されている。	
24			すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	県民が各家庭で水素エネルギーの活用ができるようになっている	
25			働く場所や時間を自由に選択し、人間らしい働き方が実現されている	自宅での勤務が基本となり、家庭と仕事の両立が実現されている	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
26			先端技術の実験場が整備され、全国のイノベーションをリードしている	県内で6Gの実証実験が進められている。	県内で6Gの実証実験が進められている。
27			人種、国籍、障がいの有無に関わらず、多様な人材の活躍が図られている	県内企業で人種、国籍など多様な人材の採用が進んでいる。	
28			南海トラフ巨大地震からの復興を成し遂げ、県外、国外へのモデルケースとなっている。	県南部を中心とした事前復興特区として、大規模災害へのまちづくりをすすめている	
29			県内の企業及び消費者の持続可能な活動が全国の取り組みをリードしている。	消費者指向経営企業が全県に展開し、業種ごとの先進事例が蓄積されている。	
30			カーボンニュートラルが達成され、さらに、徳島の温室効果ガス吸収分が他県・他国の排出分をまかなっている。	県版脱炭素ロードマップに基づく施策展開により、官民連携による取り組みが進んでいる。	
31			海洋汚染の原因となる製品や原材料の使用が禁止されている	ASC/MSC認証制度の浸透が図られ、海洋資源の保護が図られている。	
32			県内の森林の適正管理が図られ、持続的な生物多様性の確保が達成されている	FSC認証制度の浸透が図られ、県産木材の活用が進められている。	
33			ハード面での災害に強いまちづくりの先進地域として全国の防災対策を先導している。	公共施設はもちろんのこと、企業や個人宅の耐震化が進められている。	
34			国外の団体と連携し、県内の課題解決に取り組んだ実績をグローバルに展開している	県内・県外の団体との連携による広域的なプロジェクトによる県内の課題解決を図っている	
35			四国を始め全国でリニア網が整備され、移動が容易になっている。	陸路・空路ともに自動運転の車両が整備され、地域の公共交通を担っている	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
36			南海トラフ巨大地震における災害対応を通じて、他県へ経験・知見の展開を図り、世界における災害対応先進国としての立場をリードしている	被災した他県への支援を積極的に行うとともに、徳島の災害対応に向けての知見の集積を行っている。	
37			平時と災害時両面で官民連携が円滑に進められている。	県内団体が平時の活動と災害時の活動をフェーズフリーにすることで、災害対応力を高めている。	
38	子育て環境の充実	県西部に習い事や子どものための施設などが十分でない。人口減少社会などと散々言われているが、その対策に本気度が感じられない。	子どもの学びの環境が充実しており、地域間の格差がなく身近にある	子育て世帯への支援が充実し、社会全体で子育てをサポートする体制が構築されている。	
39	子育てがしやすい町づくり	もっと子供達を遊ばせる場を作ってほしい。どこかで遊ばせようと思ったら、県外に行った方が楽しいので、徳島以外に遊びに行こうと思ってしまう。	子供は減っているが、その分教育などへの補助が手厚くなっている。それにより子育てをしている若者が県外へ移住しなくなる。	子育てしやすいように、遊べる場所が増えたり、学ばせる場所が増える。	自治体の管理下での遊び場や、学びの場を増やす。あすたむらんどのような場所が県内のさまざまな地域に増えればよいと思う。
40			子育て環境が充実している	地域内に子どもが安全に遊べる場所が整備されている	
41			オンライン授業などの活用によりリアルな学校に通わなくともいい社会になっている。	ICTを活用したオンライン授業が当たり前になっている。	
42		通学や部活に行くときなど、自転車や歩いているときに車とぶつかりそうになったことがある。運転が荒い人が多いと思う。	交通違反がなくなり、自転車や歩行者を優先する交通マナーも浸透している	自転車の優先道の整備と運転者の意識改革	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
43		車がないと生活ができないが年を取るとつれ視力の衰えなどいつまで運転ができるのか不安を感じる。	陸・空含め自動運転の無人タクシーが普及し車を所有せずとも移動に困らない社会が実現している。 また、それが、公共交通機関に置き換わり地域の足となっている。	完全自動運転の達成	
44		山間部に住んでいるため病院に通うのが大変	オンライン診療により、自宅にいながら正確な診断ができるようになり、薬も自宅に送り届けてもらえるようになっていく。 (病院での無駄な待ち時間もなくなる)	各家庭に5Gを利用したオンライン診療ができる環境が整備されている	
45			県民意識改革と医療技術の進歩により、生活習慣病を克服し健康寿命が100歳となっている	健康志向の食事・生活が普及している	
46			自然エネルギーのみで生活でき、環境に配慮された持続可能な社会が実現している。	自然エネルギーの効率を飛躍的に高める	
47	徳島ならではの幸福を実現	人口減少と若者の転出超過により、地域の存続が危ぶまれている。	徳島県ならではの自然・文化・伝統などの魅力を県民が認識し誇りを持っており、それに惹かれた移住者も増え、すべての県民が幸福を実感している。	徳島県の魅力をそれぞれの県民が認識しており、新たな魅力の創出にも取り組んでいる。	
48	雇用の場の創出	魅力的な仕事が少なく若者が県外に出て行ってしまう。	県内に魅力的な仕事がたくさんある。	企業の誘致に力を入れる。	
49	観光振興		阿波おどりや鳴門の渦潮に並ぶマチアソビのような新たな観光資源が数多くあり、1年中観光客で賑わっている。	イベントの開催、ツアーが創られている。	

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
50	ダイバーシティ社会の実現		すべての人が多様性を認識し、受け入れ、活躍できることができる社会となっている。	教育の充実により、子どもころからその重要性を説く。	
51	安全・安心に備える		南海トラフ巨大地震への備えが万全となっている。高確率の地震予報が実現し、巨大地震の不安から解放されている。	住宅の耐震化、津波対策が進められている。	
52	地元に住み続けられるまち	田舎には仕事や娯楽が少ないため、孫や若い人が県外に出て行ってしまふ。	若者が地元でも住み続けられるように、また、県外へ出てきた戻ってきたいと思えるような徳島県になっている。	仕事を増やし、子育てをしやすくする。子育てには地域の高齢者も加わり地域全体で子育てをする。	
53	安全でストレスのない交通社会	徳島は四国でも渋滞が多いと聞いたことがあり、公共交通機関の利便性や街の構造的な問題が関係していると思います。	未来技術を活用した都市整備が進められ、あんぜん渋滞レスの社会が実現している。	そもそもの車の使用量を減らすため、自動車以外の移動手段が複数あり、車がなくなるとも不便を感じない。	公共交通機関の発達。移動は車という住民の意識改革。景観整備やイベント開催など歩こうと思える街づくり。
54	気候変動	最近では、毎年のように異常気象と言われ、全国各地で台風やゲリラ豪雨などの被害が起きています。また、今年はどこも梅雨明けが早く、災害とも言える猛暑の日が続くことで熱中症が心配されます。	環境にやさしい徳島県として世界に知られ、環境首都とくしまを実現している。	水素エネルギーの活用など環境に配慮した生活が根付いている。	水素ステーション設置の支援、水素自動車購入への補助を拡充させる。水素関連の研究開発に向けた企業の誘致を行う。
55	プロスポーツによる地域振興	ヴォルティスやインディゴソックスに加え、ガンバローズがバスケットボールのプロリーグに参戦を目指すなど明るい話題があるが、この機運を逃すことなく徳島に浸透・定着させる必要がある。	スポーツが盛んで、プロリーグで日本一を目指せるレベルに達しており、若者から高齢者まですべての県民が応援するチームが複数存在している。	県出身の選手を輩出できるよう若手の人材育成に注力する。県民が地元のチームであるとの認識を持っている。	地域住民との関わりを持てるイベントを開催。市民デーなどで観戦のハードルを下げる。

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
56	人口減少社会	人口は減少する一方であり、出生率の改善や移住者の受入増に向けた取組も進めていると思うが、人口を維持するには到底及ばないのが現状。 社人研推計によると、2060年の徳島県の人口は43万人弱、生産年齢人口は2020年度比で約半分になる。現実を直視し、最悪のシナリオも想定し、選択と集中による人口減少を踏まえたまちづくりを考えるべき。	人口減少に適応した持続可能な社会システムが構築され、未来技術を駆使することで生産性は大きく向上している。 人口減少を克服したとして国内外から注目されるモデル県となっている。	人口減少社会に対応するための議論が各地域・圏域で行われ、県民が危機感を共有している。	
57	未来技術の活用による人口減少社会への対応	人口減少による労働力不足	オンラインで遠隔地のロボットを操作することで労働力不足が解消されている。 県外はもちろん、同時翻訳で言葉の壁もなく海外にいながら徳島県で働くことが可能となっている。 通勤時間という概念もなくなるためワークライフバランスの向上にも寄与し観光にも応用されている。	関連分野の市場が盛り上がりを見せており、技術開発への研究・支援が進められている。	プログラマー等人材の育成を積極的に行う。
58	キャッシュレス社会の実現	現金やキャッシュカードを持ち歩くことが少なくなっており、たまたま入った店が現金のみの店舗だった場合に支払いができないなど面倒。	完全キャッシュレス社会が実現している。	キャッシュレスが普及し県民の抵抗感もなくなっている。	詐欺被害の予防と注意、周知等を行い不安を払拭する。
59	にぎわいづくり	徳島県でのコンサートや劇などのイベントが少ない	幅広い文化活動が県民の身近にあり、徳島の伝統的な文化・芸術が多くの県民に引き継がれている。	建設予定である徳島文化芸術ホール（仮称）を中心とした徳島駅前の活性化が進み、1年を通して多くの催し物が開催されるとともに、多くの県民が周辺施設を利用している。	徳島文化芸術ホール（仮称）の円滑な建設とあわせて周辺道路の整備などアクセスをよくする。
60	地場産業の活性化	広大な森林面積を誇りながらも徳島県の林業がそれほど盛んでない	徳島県産材がブランド木材として認知され、海外にも多く輸出され、県の主要産業として確立している。	林業の担い手として県外からも移住者が増えている。	学校教育や木のおもちゃ美術館などを通じ、木育の取り組みを推進する。

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
61	人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> 将来の人口減少や高齢化に備える必要がある 中山間地を中心に高齢化に伴う免許返納が懸念されるが人口減少により公共交通の維持が問題化すると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地を中心に自動運転化された公共交通システムが確立されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の中山間地で自動運転された公共交通のモデル事業が展開されている 	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地での自動運転の浸透のため、モデル事業を積極展開する（県民、企業、行政）
62	人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化による人口減少に向けて高齢者に優しいコンパクトなまちづくりを推進する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 過疎地では、デジタルを駆使した若者を中心に適度に分散し、市街地では、高齢者が住みよいコンパクトなまちづくりが形成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が安心・便利に住める集合住宅が市街地に集積するとともに、質の高い介護サービスを受けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を中心に高齢者専用の集合住宅を整備（企業、行政） 今後増えてくる高齢者に対応可能な介護を提供する体制を整える。（企業、行政）
63	人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの中心となる人材育成が今後の人口減少社会では急務ではないかと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に住む人が、地域の次代を担う人材を育成する好循環を生み出している 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題に取り組む企業と学校が連携した教育が確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題に取り組む企業が増え、そうした企業と学校が連携して子どもの学びにつなげる体制づくり（県民、企業、行政）
64	デジタル活用	<ul style="list-style-type: none"> 今後深刻化していく地域課題の解決には国が進めているデジタルの活用を図っていくことが重要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる分野でデジタル活用されている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域偏在している医療分野でオンライン診療が浸透している 	<ul style="list-style-type: none"> 地域偏在している医療分野をモデルとして先行的にデジタル活用を進める（病院、行政）
65	持続可能な水道	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が進む中で、生活に必要なインフラである水道は持続可能であるべき 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少しても水道が持続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 水道を運営している市町村間で連携がとれ、効率的な運営ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 水道維持のための事業者間連携を推進するとともに、人口減少による減収対策について議論を行う
66	地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化や地域づくりには、地域の人気がついていない魅力を磨き上げることも重要と思うので、地域外の人材がまちづくりに取り組めるようにする仕組みづくりをしてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島の地域づくりを学びに世界中から人が訪れている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりに取り組む人材が県内外を問わず、徳島に関わっている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域外の人材を組み込んだ地域づくりの体制や制度をつくる（行政、企業、県民）
67	伝統文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> 徳島の伝統文化を子ども達に引き継いでいくことが重要である 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島の文化芸術を継承しながら、子ども達が新しい発想で発展させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島の文化芸術が子ども達に浸透している 	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場に徳島の文化芸術を取り入れる 子ども達が伝統文化に触れることができる機会を増やす

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
68	もうかる農業の推進	ICTを活用して徳島の農業を稼げる産業にしていくことで、徳島で農業を目指す人が増えるのではないかな。	ICTを活用した農林水産業が浸透し、安定した農業経営に繋がっている。デジタルに強い若者が集まる好循環が生まれている。	ICTを活用する農業が広がっている。	ICTを活用する農業の成功事例を増やしていく（行政、農業関係者）
69	安心して子育てできる環境づくり	地域全体で子育てしている家庭を見守る意識を作ることが必要	助け合いや支え合って、家族を孤立させずに安心して子育てができる環境となっている。	子どもの居場所となる場所が地域に増えている。	<ul style="list-style-type: none"> 子育てしている家庭が集まれる場所づくりをする。 地域で子ども食堂を増やしていく。 子ども達が遊べる公園をふやす。
70	中心市街地のまちづくり	「徳島の良さは？」の答に窮するほど、特に若い世代にとって、中心市街地が魅力的な街でない。	新町商店街がかつてのにぎわいを取り戻し、県民が誇れる市街地を創出した結果、観光客、移住者が増加	「徳島文化芸術ホール」の整備を起爆剤に、点から線、線から面へと、にぎわいの広がりを創成。航路を活用し、イタリアのヴェネチアのように水の都らしい都市を確立。	<p>①中洲に、昼からお酒が飲める飲食店街を整備</p> <p>②にぎわってきている万代埠頭、イオン、藍場浜公園までのアクセス整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ひょうたんじまクルーズ 500円は高い。高校生でも乗れるよう、市バスなみの200円に。 SUP 最近、経験してみたが、思ったより楽しい。アクティビティも兼ねられる。レンタルし、各駅で、乗り捨てできるように。 その他、スワンボート、屋形船 <p>(実施主体) いずれも県や市、民間</p>
71	徳島産農産物を守る	<ul style="list-style-type: none"> 農家の減少 後継者、担い手不足 収入面で安定していない 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に徳島の農産物が有名になっている 若い世代で農家が増え、収入面でも安定している 	<ul style="list-style-type: none"> どんな年代でも農家を始めやすい環境が整っている 徳島の農産物の美味しさを全国に発信する環境がある 	<ul style="list-style-type: none"> 放棄土地の有効活用 自然災害が起こった際、収入を安定させる体制づくり ベテラン農家さんからの指導、助け合いができる

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
72	人づくりこそ徳島県づくり		<p>○「徳島大学における総合大学化構想」の前進及び進展により、徳島大学が世界の名門大学の上位大学になっている。</p> <p>※ 徳島大学に新たに、法学部、経済学部、商学部、人文学部、獣医学部、看護学部の開設</p>	<p>○徳島県が「高度人材への投資」で経済成長を図る。</p> <p>※ 高度人材⇒博士号の学位を有する者、医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、弁護士、公認会計士、税理士、不動産鑑定士、弁理士、技術士、一級建築士、中小企業診断士、社会保険労務士</p> <p>○徳島県が世界の名門大学を徳島県に誘致開学して、徳島県の地域の情報発信や地域の活性化を行う。</p> <p>※ 世界の名門大学⇒オックスフォード大学、ハーバード大学、ケンブリッジ大学など</p>	
73		徳島県には「豊かな自然資源があるが上手に保全と活用ができておらず、地域の経済の好循環に活かしていない」という課題がある。	<p>自然資源が保全され同時に活用され、そこから得られるサービスや利益が各地域の経済に循環している社会が実現されている。</p> <p>また人口減少によって不足する部分については、自然資源を活用する産業に浸透したIoTを伸ばすことで、省力化を図り進歩させます。</p>	<p>県内にある自然資源が認識され、その可能性が活発に議論されているような社会が実現されている。</p> <p>自然資源は観光などのサービスのほか、一次産業や気候変動対応に必要な再生可能エネルギーにIoTを含めた先進技術を積極的に入れることで、新しい経済循環を生み出す産業の育成が始まっている。</p>	<p>自然資源については市町村の役割が重要ですが、担当する部署・担当者が明確でありませので、担当を明確にした窓口が欲しいです。また担い手となる県民は人口減少はあるものの生活に近い内容なのでNPOや自然保護団体も含め興味のある事項に参加ができるように、フューチャーセンターのような新しい視点で集まれる会議体をつくりそこに参加する県民や団体を取り組みに参加できるような仕組みを作っていたきたい。</p>
74	スポーツ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上に比べ、海上施設が不足 ・手軽に、身近に心身を鍛練できる場が見つからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に応じた鍛練の仕方が選択できる ・静穏な港内だけでなく、外海にも鍛練の場を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・港内に安全、安心な鍛練施設が整っている ・老若男女が協調して（こぎ手とのり手のコミュニケーション等）、自力で小舟を操れる喜びが生まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・海上スポーツに親しみ、健康を維持できるように、港内に静穏な海面を見つけ、地域社会全体で支え合うシステムづくり（県民、企業、行政） ・棹、かい、櫓、帆などの和船文化を提供し、温故知新、切磋琢磨の大切さを認識する体制を整える（県民、企業、行政）

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
75	未来のとくしま	人口減少、超高齢社会の到来	全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2030年頃に約65万人、2045年頃に約54万人、2050年頃には50万人を割り込む予想である。生産年齢人口も減少を続け、2045年には約26万人にまで減少する。人口減少、労働力不足と課題を抱える一方、「人生100年時代」を見据え、すべての世代が活躍できる「エイジレス社会」の実現	とくしまは全国屈指の「光ブロードバンド環境」や「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により創出されたビジネスにより、地域は活気にあふれ、国内外から人が集まり、たくさんの人口が活躍できる場を作り、経済を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村における将来ビジョンを明確にし、その実現に向けて地域住民、行政が各々の役割に応じて行動する仕組みを構築することにより、地域のすてきな未来を創造する取組みを推進する。 ・全国屈指の光ブロードバンド環境や企業立地制度などAIやビッグデータなど情報通信関連企業の誘致を推進します。
76	地域の魅力あふれるとくしま	全国から見た徳島県の魅力、県民から見た徳島県の魅力がまだまだ少ないように感じる。徳島県の隠された魅力が全体に広まり、県民の満足度・全国からの注目度を高める必要がある。	全国から人が訪れ、徳島の風土・食・文化を楽しみ、県民にとっても住んでいる土地への愛着や県民全体への関心を持つ	徳島の風土・食・文化の隠された魅力が県内・全国に広がる	地域の持つ素材を活かした食づくり、文化の発掘を通して、全国、県内全域に地域の隠された魅力を知ってもらうきっかけをつくる
77	豊かな自然の中で便利な暮らしを	全国的問題ではあるが、人口減少が著しく、本県においても2045年で53万人台と予測され、過疎地では既に、実店舗を持つ商店は減少していている。一方過疎化に伴い、地価は下落し、家を持ちやすくなっている。	東京一極集中の人口構造から地方への移住が定着し、都市部と山間部での生活に隔差がなくなる。山間部での人口を保つことにより中山間地域の持つ公益的機能の維持が見こまれ、下流の都市部にも恩恵が生まれる	地方での情報インフラが活発化し、リモートワークの受け皿として各市町村の空き家や安価な土地や住環境の良さが注目され移住の流れが起きる	県をあげて、インターネット環境の更なる充実化を推進すると共に、自宅に居ても全てがそろそろ（商店がなくても生きていける）環境をつくるために、物流の拠点やネット通販等の誘致を行う。また中山間地での定住を促すため、移住促進と農林の連携した補助金を県単独で立ち上げる。
78	徳島人口増加と創業者増加	若者の都市部流出 都市部との雇用や職種の差	都会「徳島」を目指す。 人口2倍→140万人 創業をしやすい環境で、好きな分野や自由な働き方で豊かな生活	<ul style="list-style-type: none"> ・DX、GX等の推進による職種や働き方の多様化 ・デジタル人材やものづくり人材など専門的な能力を持った人材の呼び込み ・創業者支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルに特化した県内の魅力発信で徳島ファンを増加させる。 ・創業支援の一元化

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
79	生涯にわたる健康のための安心・安全の食生活		幼少期から大人まで「地産地消」の推進、添加物や農薬不使用の安心・安全な食物により健康な暮らしができる。	農業や漁業の従事者が増える取組みを行う。	県・市町村、団体、高等教育機関等と連携を図る。
80	人口減少をゆるやかにして空き家も減少		人口の減少がゆるやかになり、移住・定住で空き家を利活用して空き家が減少している。	各地域に身近な空き家相談スペシャリストを配置（職務経験を活かすための再雇用等専門知識を社会に活かしてもらう）	県・市町村、団体、高等教育機関等と連携を図る。
81	止まらない人口減少と高齢化	全国的に少子高齢化が現実となっている中、徳島県においては、県庁所在地である徳島市においても人口が減少しており、この現状に歯止めをかけることが課題である。	人口の減少は、全国的な減少傾向から増やすことは難しいが、誘致を行うことで、平均年齢を若くすることが可能と思われる。また、人口の集中化（コンパクトな地方都市）を想定し、開発を行う範囲を限定する。	県外からの誘致はもちろんのことではあるが、対象は近畿圏であると考え、昨今現実味を帯びているサテライトオフィス、在宅勤務の常態化に対応した車の所有、安価な地価等、ゆとりある生活が見込める居住地の選び方を訴える。	<ul style="list-style-type: none"> 対象を限定した誘致政策 都市開発の再考
82	安全、安心な暮らしの実現	少子高齢化が進んでいる中で、子どもの人口を増加させること、また将来、その子どもたちを含めた若い世代が徳島に定住してくれること、そして、高齢者が生きがいを持って暮らせる社会をつくるのが課題だと思います。	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境が充実している（環境の質も金銭面も） 雇用が充実している（企業誘致による働く場所の増加やテレワーク等の働き方の多様化への柔軟な対応） 高齢者が取り残されない社会である 	<ul style="list-style-type: none"> 働きながらでも安心して子育てができる環境がある デジタル化による働き方が多様化した社会である 地域と行政が連携し、充実したサービスが受けられる社会である。 	企業、行政、地域が協働し、子育てしやすい職場環境や費用の負担、また地域に根ざしたサービスを提供していく

番号	意見要旨				
	テーマ	現状と課題	長期ビジョン（2060年頃の徳島）	中期プラン（2030年頃の徳島）	実現のための取組（実施主体）
83	交通手段の充実	<ul style="list-style-type: none"> 徳島では過疎地域かどうかに関わらず、車がないと買い物をはじめ、自由な移動が困難 バスやJR、各地域でコミュニティバスもあるが、本数が少なく、通勤通学など決まった生活サイクルの中で利用するにはよいが、突発的な移動が必要になった際は不便 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や住む地域に関係なく、好きなときに行きたいところへ移動できる環境が整っている（車がなくても車があるのと同じような移動ができる環境） 	<ul style="list-style-type: none"> バス、JR、コミュニティバス、タクシー以外の交通手段の充実 特に個別の移動ニーズに対応できるような体制ができている 	<ul style="list-style-type: none"> 移動を地域社会全体で支え合う仕組みづくり（県民、企業、行政） 市町村単位で実施しているデマンド交通では使えるエリア、人が限られるので県レベルでの事業で県内全域を対象とする 年齢やエリア、曜日を問わず、誰でもいつでも使えるシステムにする（県民、企業、行政）
84			<p>県が推進している「DX（デジタルトランスフォーメーション）」、「GX（グリーントランスフォーメーション）」が民間含む県内全域の“働く場”に浸透し、広い意味で“働きやすい街”になっている状態</p>	<p>左記達成のために市町村にノウハウ等を具体的に紹介（各電算担当課に県への研修等するくらいがっつりと）</p>	<p>他団体に展開できるようにさらに左記を実践していき、精度・質を高めていく</p>